

## 山形の家づくり支援事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	農林水産部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	「やまがた森林ノミクス」の推進						
	目的	本県の豊かな森林資源の県民参加での利活用と先性を進めるとともに、林業及び木材関連産業の振興を図り、地域の活性化に結びつける。						
	目標指標(R2)	木材(素材)生産量	60万m <sup>3</sup>					
	策定時の実績	36万m <sup>3</sup> (H27)	現状	48.9万m <sup>3</sup> (H29速報値)	主要事業	県産木材等の需要拡大		
事業名	山形の家づくり支援事業費		担当課・担当	森林ノミクス推進課 木材産業振興担当				
事業開始年度	平成22年度		事業終了(予定)年度	令和元年度				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	山形県県産認証材「やまがたの木」を使用した木造住宅への支援、川上から川下までの関係者が連携して県産木材を活用した住宅を供給するネットワーク活動を支援することで一般住宅での県産木材利用を拡大していく。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<p>○県産認証材「やまがたの木」を延べ床面積に対して一定割合以上使用した住宅に対し定額200千円を支援する。</p> <p>○森林所有者・木材供給・設計・建築等の川上から川下までの住宅建築関連業界が一体となった家づくりネットワークが実施する、県産木材を使用した普及啓発活動等を支援する。</p>							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：一般住宅での県産木材のシェア拡大のため、施主に対し間接的に支援することで、県産木材利用を普及・啓発していくため							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業	25,150	22,000					
	顔の見えるやまがたの木で家づくり推進事業	3,000	2,200					
	計	28,150	24,200	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	28,150	24,200					
	計	28,150	24,200	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	交付決定数	活動実績		159	110	-	-	-
		当初見込み	件	150	110	110	-	-
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	製材品出荷量	成果実績		123	-	-	-	-
		目標値	千m <sup>3</sup>	122	138	153	-	-
		達成度	%	100.8	-			
関連事業	県産製材品高度化促進事業 公共・民間施設木造化・木質化推進事業 山形の家づくり利子補給制度(県土整備部)							

## 事業目標の考え方(事業目標設定時)

新庄市に整備された大型集成材工場や、県内各地に計画された木質バイオマス発電所等があり、集成材等として使用されるB材、燃料用木質チップ用等として使用されるC材の木材需要が高まっている。  
 一方、製材用材(以下、「A材」という)は、市場で高値で取引され、森林所有者の所得向上と林業経営の意欲向上に繋がることから、B・C材と一体的に生産されるA材の需要拡大が課題となっている。  
 こうしたB・C材にけん引される木材需要の高まりの機運を確実に捉え、県内におけるA材利用が最も期待される住宅分野において、県産木材「やまがたの木」を使用した住宅を支援することで、A材の需要を拡大し、林業・木材産業の活性化に資する。

## 事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・「やまがたの木(A材)利用拡大戦略(以下、A材戦略)」に基づく事業実施であり、A材需要の拡大のため、重要な事業である。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	・平成22～24年度については、市町村を經由し支援をしていたが、平成25年度からは県からの直接支援に変更し、利便性が向上した。 ・やまがたの家づくり支援事業は、県産木材(A材)の利用拡大を図り、やまがた森林ノミクスを推進するための事業展開となっており、優先度の高い事業である。
	目標水準は妥当か。	A	・補助件数については、目標をクリアしている。 ・平成25年度から県内製材需要に対する県産製材品の出荷割合は上昇しており、平成30年度においてもおおむね目標を達成する見込みである。
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	・A材の需要増大により、森林ノミクスの加速化に貢献している。
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・平成25年度以降は、当初予算以上の要望がある事業である。 ・製材品出荷数量は、平成29年度の目標をクリアしている。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	・支出先の選定等各項目については、適切に実施している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	・利子補給制度を所管する建築住宅課と情報共有しながら進めている。 ・平成30年度から、「A材戦略」に基づき、A材の利用を拡大していくため、対象を無垢材に限定し実施している。
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・市町村でも独自に住宅支援事業が実施されているが、県が中心となって進めることが効果的な事業である。
今改後の課題	・県産木材の利用拡大を進め、森林ノミクスを加速化させるため、継続して支援していく。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80～99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない